部はなくなってしまう…けれども
彼女との絆は大切にしていこう
―この先もずっと
-いとしい文系少女-

放課後、文芸部の部室
二人きりで活動してきたこの部も
今日で廃部となる
決して派手な部活動ではなかったが
とても楽しい日々だった
名残惜しい思いで佇んでいると
「いままでありがとう」
傍にいた彼女が言葉をかけてくれた

「…こんな私と
一緒にいてくれてうれしかった」
こっちの台詞だ
この見た目も性格も控えめ美少女と
過ごせた時間は大切な宝物だ
「好きです…」
不意を突かれた…精一杯の告白
嬉しさと同時に情けなさがこみ上げる
彼女に言わせてしまうなんて…と
自分も…と答えるのがやっとだった

震える彼女を抱きしめキスをした
吐息が交錯する
「もっと…思い出…下さい…」
大きな瞳のハイライトが揺れる

なれない手つきで制服を脱がせる
彼女らしい控えめな、でも可愛らしい
下着を纏っていた
「は…恥ずかしい…」

下着の上から彼女の秘部に
触れる
布越しでもハッキリわかるくらい
湿っている
―濡れてるよ…キモチイイ？
耳元で囁くと
「…いじわる」
可愛らしく抵抗してみせた

「お…男の人って…く、口でされるの好き…なんだよね…？」
彼女が恥ずかしがりながら訪ねたので素直に頷いた
「が…がんばってみるね…わ…こんなにお…大きい…」
困惑しながらも彼女は男性器を口に含んだ

「ん…んん…あ…んん…」
彼女の吐息がピチャピチャと
卑猥な音とともに漏れる
初めてであろう彼女の口淫は
拙いながらも確実に快感を
そして射精感を煽った

『きもひ…いい…？んん…』
正直もう爆発寸前だ…
彼女も察してくれたのか
『出ひて…いいよ…んん…あ…』

彼女の言葉に甘えるように
口内にあえなく射精してしまう
「うっ…！ごほっごぼっ…」
むせりながらも
「…いっぱいでたね…
少し苦いけど…飲んじゃった」
微笑む潤んだ瞳が
たまらなく愛おしかった

彼女を裸にし
再び秘部を愛撫した後
ついに挿入
「は…恥ずかしいからう、
うしろから…して…」
却ってイヤラシイ気もするが
彼女のリクエストに
答えることにした

「い…痛…！」
痛みを和らげるため少しずつ挿入する
少しずつ…少しずつ深い所まで
「少しだけ…そのままでいて」
落ち着くまで背後から抱きしめた

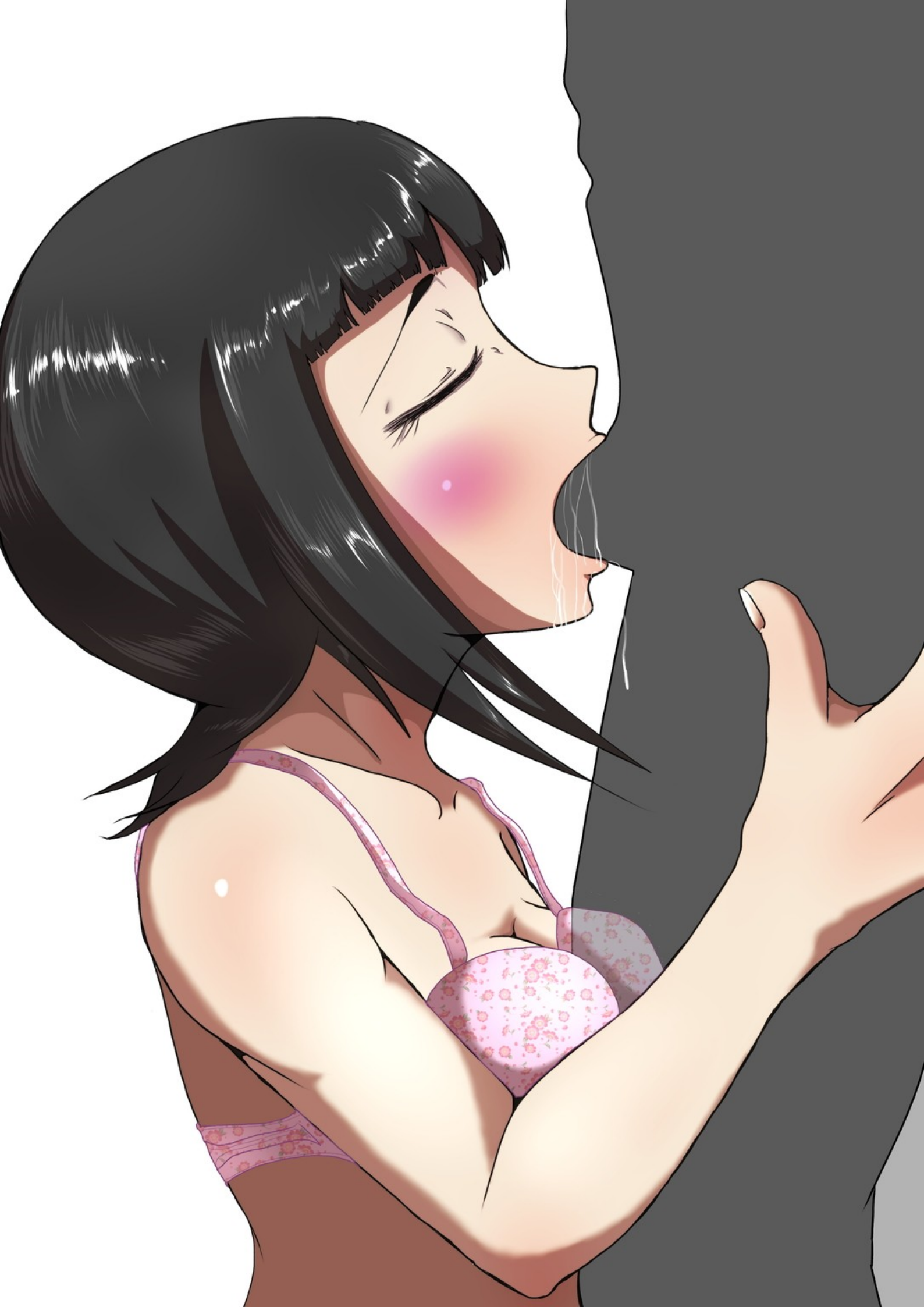
「まだ少し痛いけど…
慣れてきたから…
好きに動いて…」
彼女の気遣いが嬉しかった
少しずつ腰を動かす
「んっ!…あ!…んんっ…!」
切なげな喘ぎ声が漏れる

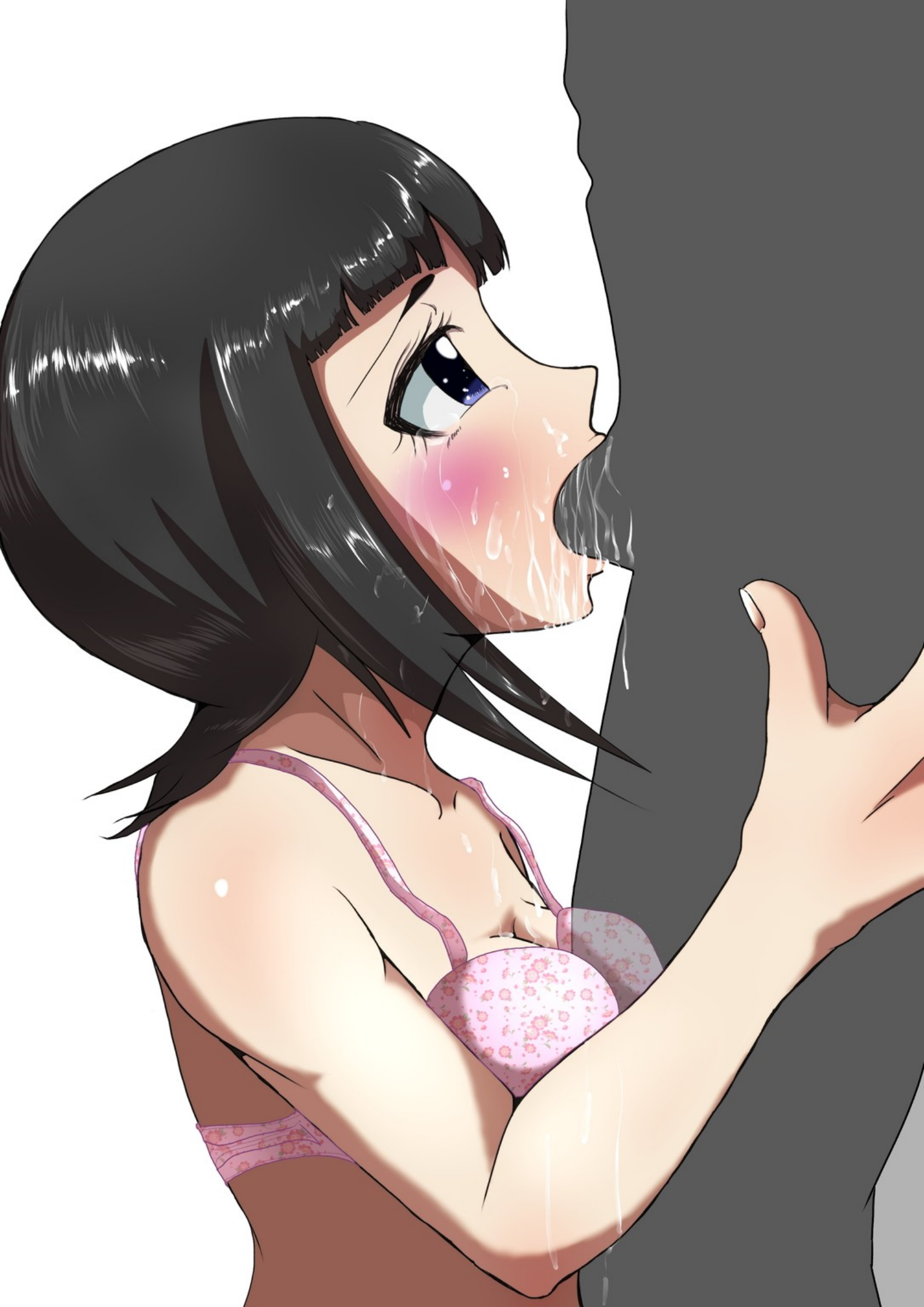
『あんっ…んん…あ…』
苦しそうだった声に色気が
混ざりだす
『んっ…あ…わ、私…初めてなのに…』
腰を振る速度が上がっていく
『あん…ふ、深いのだ…だめっ…！』
彼女の荒い吐息といやらしい音が
二人きりの最期の部室に響く
揺れる乳房…色づく白い肌
女と少女の同居する瞳
「あんっ…好き…好きィ…！」
自分も…と余裕なく答える
いつまでもこうしていたい、が…
『あっ…らめっ！な、なんか…
何かくるっ…！』
自分ももう限界だ…！

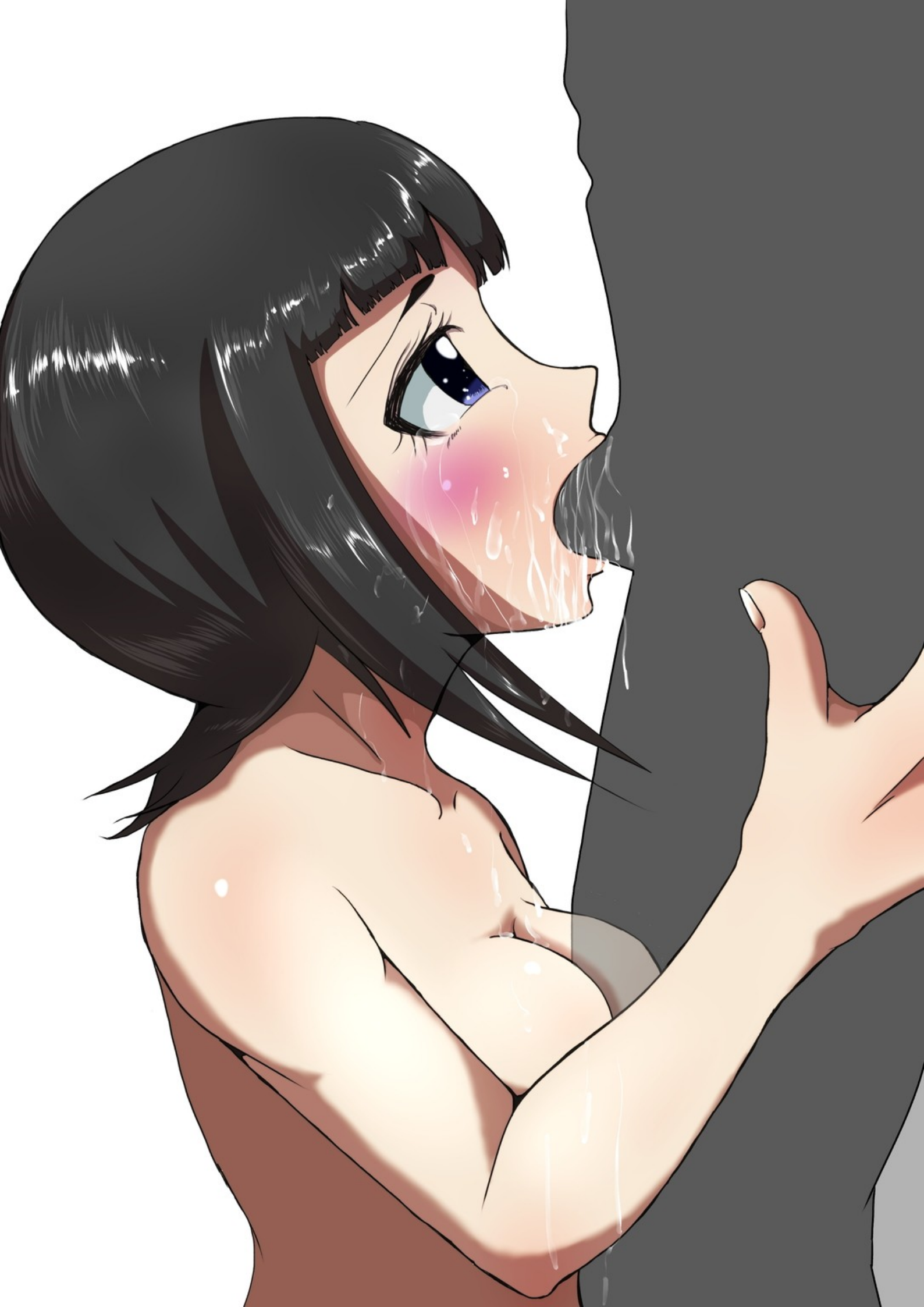
「い…イクッ…イクッッ！」
彼女の絶叫と同時に
思いの丈を子宮にぶちまけた
「あっ…あああああ！」
「は…あっ…はぁ…はぁ…
お腹…暖かい…んっ…」

「素敵な思い出…ありがとう…」
涙目の彼女を抱きしめる
部はなくなってしまう…けれども
彼女との絆は大切にしていこう
―この先もずっと

差分

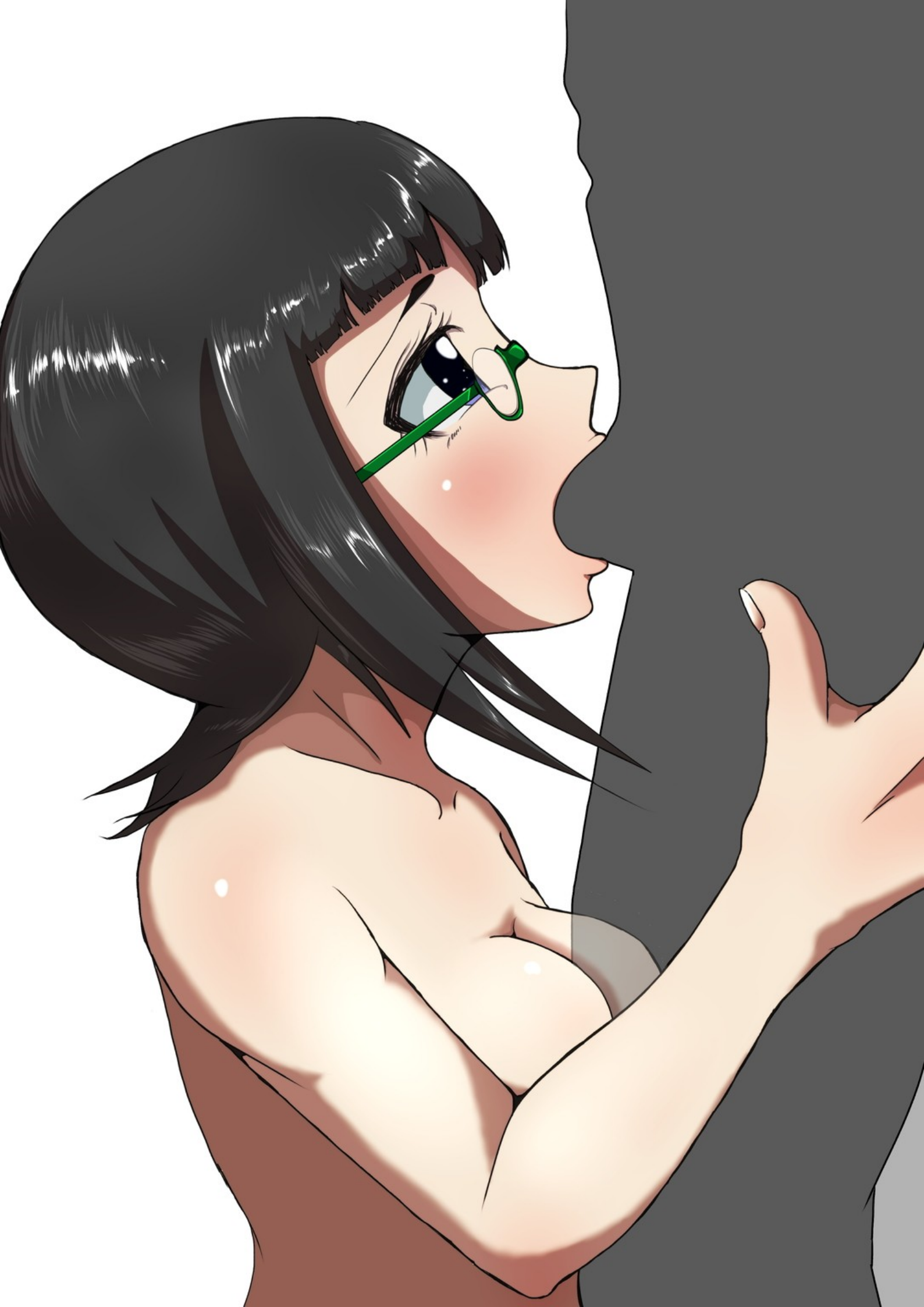


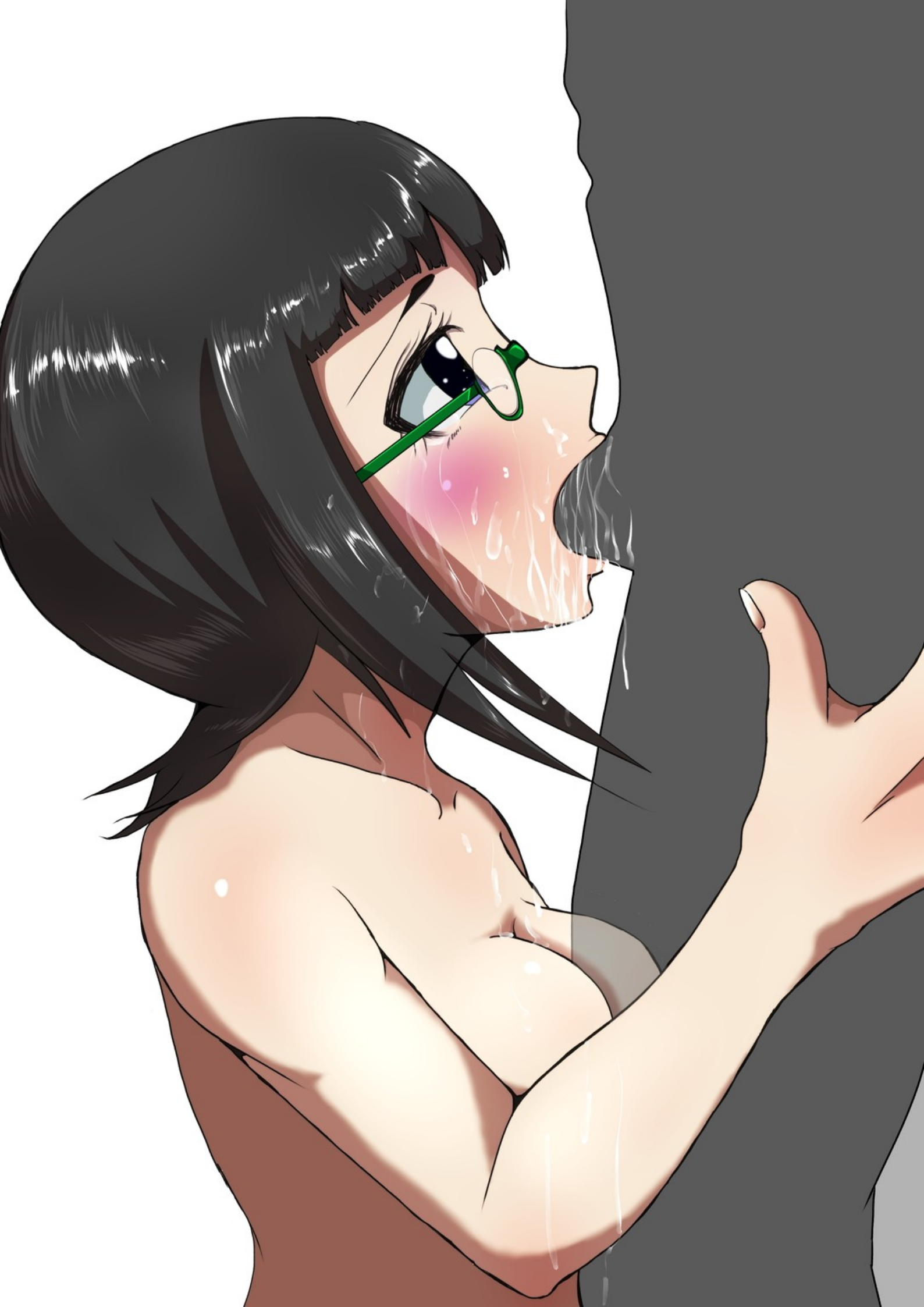


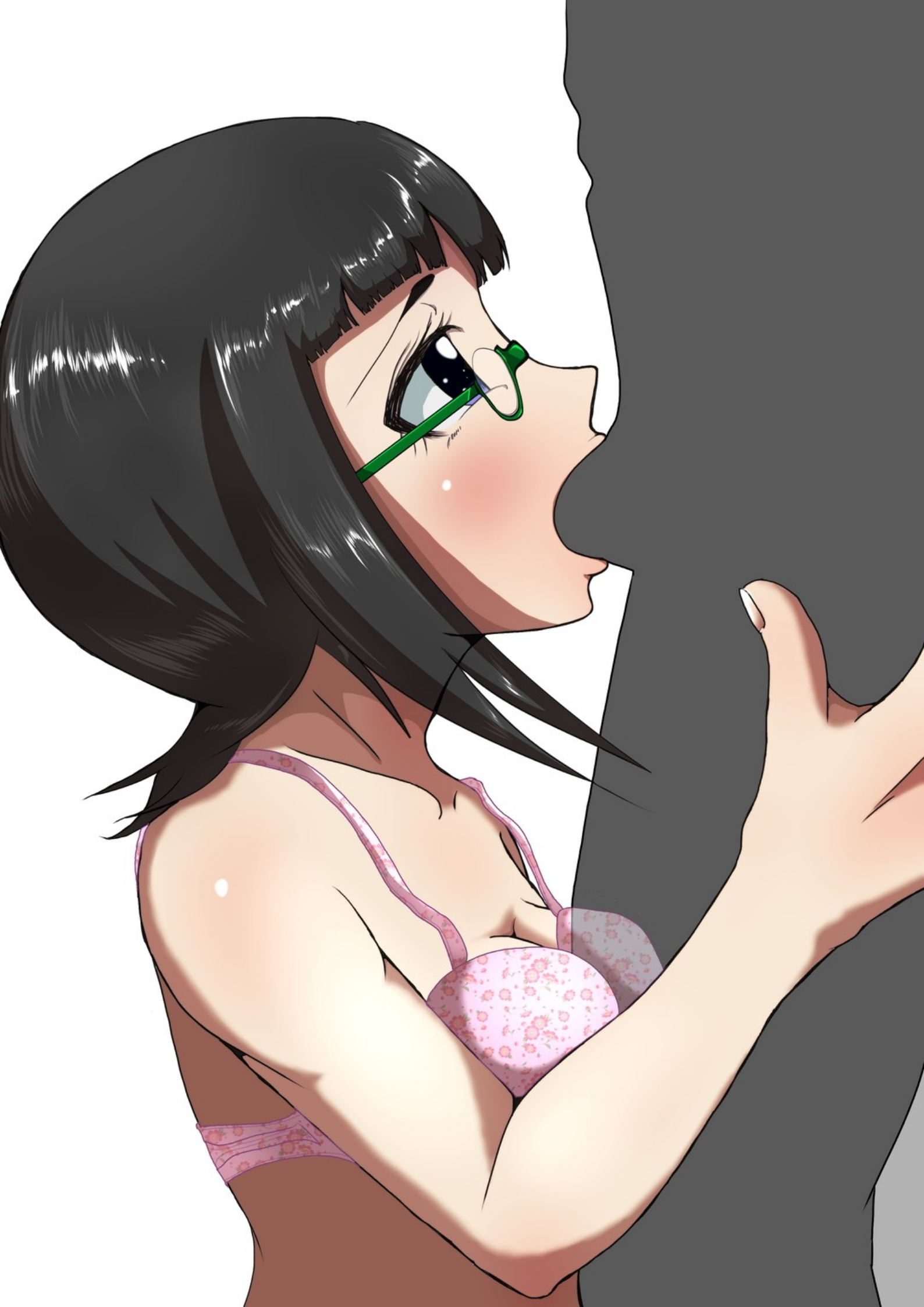


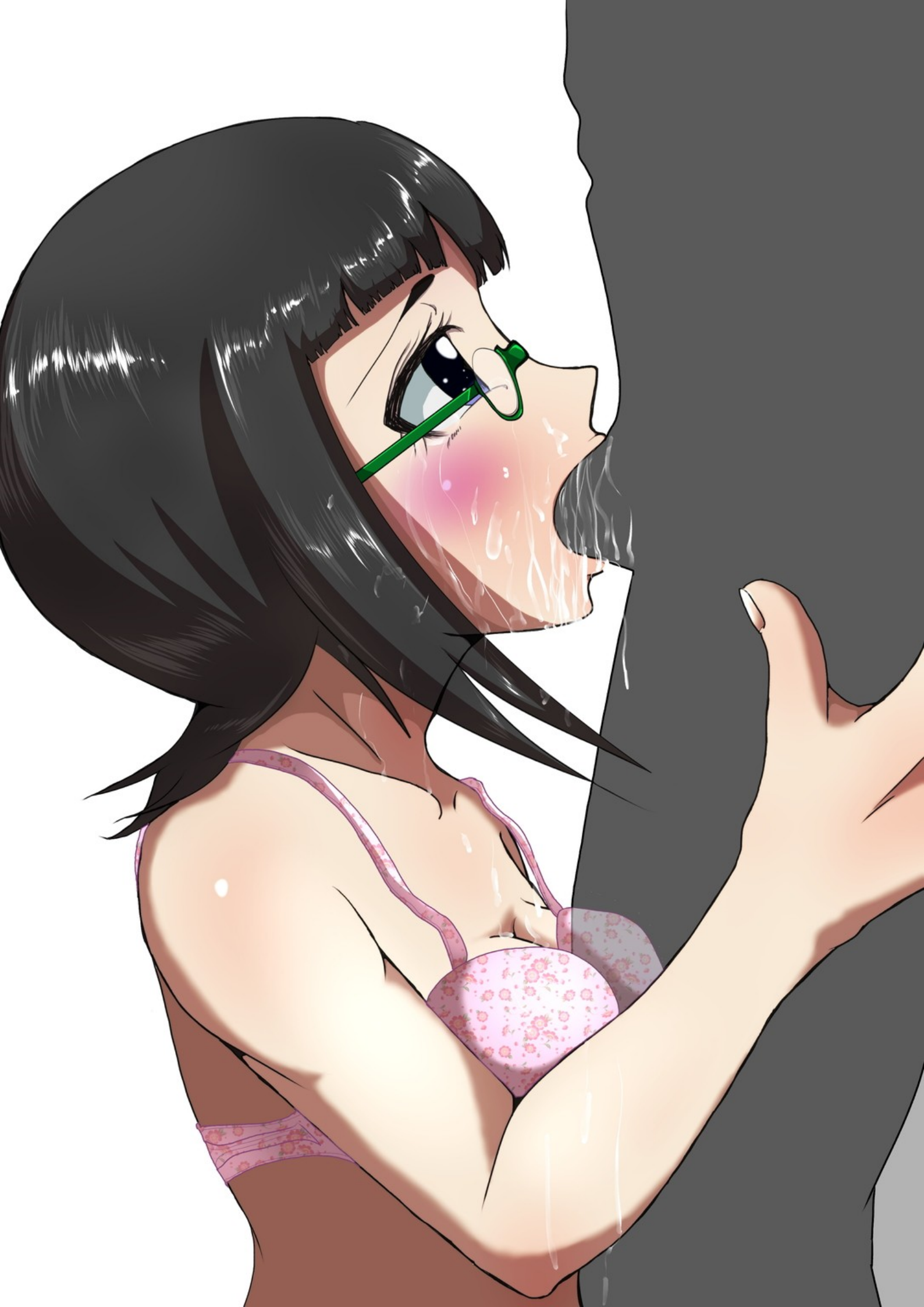
オマケ
（眼鏡）

いとしい文系少女









プロジェクト エムジェイのブログ
「ProjectMJのたまり場」
http://ayasehateru.hatenablog.com/